



## 心身は雫石力

西山中学校を卒業し盛岡第三高等学校に入学した時が雫石からの巣立ちであった。思えば、あれから48年になる。故郷の雫石を思い出すことはこれまでに幾回もあるがその多くは具体的な場面の回想シーンと言うよりは雫石で育ったことの有難味や誇りに繋がるものが多い。

今の自分の所作や思考の源は、厳しくも雄大な自然を持つ雫石の風土で培われたように思う。それは、雫石力とでも言ったらよいかも知れない。仕事も人間づきあいも我慢と思いやり、今の生業である研究や教育にも根気がある。それらをなすにあたり、私の中では雫石力がおおいに活躍した。国立大学改革が叫ばれている昨今、宇都宮大学農学部長として4年間、大学改革に向けて教授会の意思決定や意見調整を行ってきたが気を揉むことも少なからずあった。そんな時、子供のころ我が家の前から見上げた岩手山を思い浮かべることが無言の支えになった。故郷に感謝である。

さて、私が小学生のころは、雫石という風土と良き時代が調和し小学校生活も今と大分様子が違っていた。校庭脇に先生方の職員住宅があった。

当時は、放課後習い事や塾に行くわけでもないから一旦帰宅して家で採れたリンゴや野菜を持って小学校や先生のお宅に遊びに行く

ことも多かった。先生方も温かく迎え入れてくれた。その中でも印象的なのは2~4年まで教わった故木村（三宅）成子先生である。

モンペ姿の女性しか見る事のない田舎、都会っぽい美人の若い女先生はみんなの人気だった。いまでこそ「読み聞かせ」などあるが、木村先生は昼休みや放課後など時間があれば本を読んでもらった。

特に覚えているのが16代アメリカ大統領エイブラハム・リンカーンの伝記を読んで頂いたことだ。奴隷解放や主権在民を訴え歴史に残る大統領の少年時代の様子を私たちの心に沁み込むように読み語ってくれた。私は、その感想文を「頑張ったエイブ」と題して書いたが、木村先生がそれを当時の町内学校の文集「雫石たんたん」に推薦し掲載されたことがとても嬉しかったことを思い出す。このことは、その後の自分をおおいに元気づけてくれた。

人は、細やかなきっかけでも人生の見え方が違ってくる場合がある。私にとって文集掲載はまさに将来が見える小さな窓となった。いま、大学で教育・研究に携わっているが教育や研究も未来づくりである。これからの若者に未来の見え方が違って来るきっかけを与える立場になっている。私の中の雫石力を次世代に伝えたいと思う。故郷は未来をつくる源泉にもなっている。



“カラス博士”として有名な杉田さん



福井恐竜博物館にて



母親の米寿のお祝い以身内が集まった際の写真（後列右から二人目筆者）

昭和27年雫石町長山五区生まれ。上長山小学校、西山中学校、盛岡第三高等学校、宇都宮大学農学部卒業。千葉大学大学院医学研究科修了（医学博士）。農学博士（東京大学：論博）。昭和57年千葉大学助手医学部、昭和60~62年アメリカ留学。平成5年宇都宮大学助教授、平成7年宇都宮大学教授。平成24~27年宇都宮大学農学部長。著書：カラスと賢く付き合う法（草思社）、カラスなぜ遊ぶ（集英社新書）、カラス（農文教）、人体の中の小宇宙—命を見つめる—（大学教育出版）など。宇都宮市在住。